

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【5月6月度の御金言】二十八年が間、又他事なし。只妙法蓮華經の七字五字を、日本国の一切衆生の口に入れとはげむ計りなり。此れ即ち母の赤子の口に乳を入れんとはげむ慈悲なり。

【諫曉八幡抄】(全集 585 頁)

法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇氣を持とう。(破邪顕正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991年2月13日掲揚

☆ 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。

皆さん方に今迄何度か御話して来ましたが、私は昭和 31 年に両親が創価学会を通じて日蓮大聖人の教えに入信した事を契機に、当時 4 歳でしたが御授戒を受けました。当然、親は創価学会の教学試験の受験勉強等をしていましたが、子供の私は南無妙法蓮華經が何か、読む御經が何か、日蓮大聖人が何か、日蓮大聖人の教えが何かもまったく分からない、分かろうとも思わない子供でした。両親も兄弟も、只々創価学会の現世利益と、何故念仏無間、禪天魔、真言亡国、律国賊なのか分かりもしないのに邪宗魔人害毒と、慈悲をもって救うと言いながら、ののしり輕蔑し、洗脳され舞い上がっていました。日蓮大聖人の本当の教えが何か分からないまま、連日連夜、学会活動に奔走し、毎晩留守番で家族欄団の思い出はまったくありません。こんな状況の中で、私は脱腸の持病があり、友達と遊んでも、少しでも走ると脱腸の痛みで悶絶しうずくまってしまうため、現代の子供と違って、昔の子供は外で、鬼ごっこ、缶蹴り、チャンバラごっこ、相撲等々の、なにしろ走ったり、体を使って遊ぶことが基本だった為友達と遊ぶことが出来ませんでした。この為、脱腸の手術をある程度成長して手術に耐えられる体力がついてから手術をしようという医者判断で、小学校二年生になる春休みに手術をすることが決まりました。父親は術後が良かった、悪かったという人達の話職場で聞いて来て、手術の前に大石寺に登山して御祈念をして手術に臨もうと考え、医者の決めた手術日の前日が日帰り登山という、きわどい強行日程で登山しました。大石寺は、その日集中豪雨の様な大雨で、私は、知らない所で迷子になってはいけないと、親が同行した初登山の人達に、御堂や五重之塔を案内するために走り回る親を一所懸命見失わないように、自分が走れば脱腸の悶絶の痛みが襲ってくる事も忘れて走って付いていきました。日帰り登山の帰りの汽車に乗車してから、父親は、私

を走らせた事に気付いてうろたえていました。私も何故走れたのか、走っても悶絶しないのか、生まれて初めての経験を不思議に思っていました。今までの経験では、こういう事をするとい晩中熱が出て苦悶し寝ることが出来ない状態になっていましたが、そういう事も無くぐっすり眠って、すがすがしい朝を迎えることが出来ました。父親は、私を連れて医者へ昨日の顛末を話しました。医者は、親として何て事をしてんだ、何年も脱腸で苦しんで来て、そんなショック療法みたいな事は有り得ない、でも出ていないものを手術するわけにはいかないから、又以前の様な症状になったら言ってきなさい。と、言われて、それ以後、現在に至るまで脱腸の悶絶の痛み苦しみは出てこなくなりました。

この事で、私は小学校二年生の時から、坊さんになって日蓮大聖人の教えの近くで生活してみたい（御寺が何か、坊さんが何か、坊さんが何をするのか、何もしなかった）と取り憑かれたように希望し、四年生の夏休みに試験があることも知らずに、親にまだかまだかと頼み続けました。親は、日本中から成績優秀な子供が集まるのだから、試験を受けて落ちれば、本人も納得しあきらめるだろうと考える程、私は成績優秀ではありませんでした。しかし、どういう訳か 28 人中 20 番で合格しました。

話は長くなりましたが、私は池袋の法道院に在勤し、立正大学に通い仏教を学び、御寺では御信者さんの宅御講へ行くようになって真剣に仏教に向き合う様になり、少しずつ南無妙法蓮華経が何か、法華経が何か、日蓮大聖人の生涯がどういうものか、日蓮大聖人の教えが何か、日蓮正宗の矛盾が何かという事が少しずつ分かって来ました。そうすると、それまで脱腸が治った事が功德だと思い込んでいたけれども、脱腸が治った事は、この信仰に深く縁をするきっかけを与えてくれたのであって、決して功德として考える事では無いという事が分かって来ました。ですから私は、脱腸の人がいても、この信心をすれば脱腸が治るとは言った事はありません。念仏宗、真言宗、禅宗、律宗、日蓮宗、キリスト教、イスラム教等々でも癌が治ったという人はいます。いやいや、それらの宗教で治ったのは魔の通力で偽物だ、日蓮正宗で治ったのが本物だと無意味な水掛け論で言い争う問題ではないのであります。南無妙法蓮華経を唱えて水虫が治ったという人はいません。水虫は水虫の薬を塗ればいいからです。でも癌よりはるかに水虫の方が南無妙法蓮華経の功德が出やすいはずだと思います。私達が縁する人に折伏する時に、癌が治ったとか、前の飛行機に乗った人は墜落して死んだけど、私は後の飛行機だから助かった等々の話は折伏では無いのであります。折伏とは、日蓮大聖人の教えを伝える事なのであります。どんなに先天的な不治の病、障害を持っている人であっても、産まれて来て良かった、生きて来て良かったと思える、どんな生命にも仏の生命が具わるという、一切衆生平等成仏が説かれている唯一無二の成仏大願、菩提心堅固の法が日蓮大聖人の教えであるという事を聞く耳を持たなくても、怒っても、「ホトトギス幾度鳴くも初音なりけり」で、伝えなければ、南無妙法蓮華経の法に縁してもらうことは出来ないのであります。

昔、戸田城聖の信心指導のレコードで、「真言宗、念仏宗、禅宗、キリスト教、日蓮正宗等々、世の中のありとあらゆる宗教を、ヨーイドンで信仰を始め、一番功德が多い宗教が一番正しい宗教という事になるんだから、やってみればいいんだよ。」というのを聞いた時、会長自身が完全に狂っているなと確信しました。真、善、利を説いた牧口常三郎も池田大作も皆現世利益に狂ってしまっ、自分洗脳、他人洗脳して行っしたのであります。嘘の宗教は、生老病死から逃げられると説きます。真実の宗教は、生老病死から逃げられ

ないと説き、生老病死に直面した時こそ絶望しない永遠常住の仏性が全ての生命に具わっている。その事を示している法は唯一無二、南無妙法蓮華経しかないと言っている法こそが必要なのであります。現世だけの現世利益を主張するということは、永遠常住の成仏を全否定する事なのであります。

法を説き伝えることが折伏。功德御利益話は折伏では無い。